

平成 29 年度 第 1 回 静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 平成 29 年 6 月 15 日（木） 10 時から正午まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1 階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)
石川 宏之 会長、山口 恭正 委員、山本 清明 委員、
守屋 司子 委員、山岡 拓也 委員、家木 征二 委員、
川崎 勝彦 委員
(事務局)
文化財課（登呂博物館）
伊藤担当課長兼館長、田中主幹兼副主幹、益田主査、
小島主任主事、鈴木主任主事、武田主任主事、桑山主事
- 4 傍聴者 0 人
- 5 議事記録
1 登呂博物館長挨拶
2 事務局 職員の紹介について
3 議 事
(1) 平成 28 年度の事業報告について
(2) 平成 29 年度の事業について
(3) 議題 「登呂博物館の新たな価値の模索・創造」に
ついて
テーマ 登呂遺跡の貴重な財産を次世代に引き継ぐ
ための、今後の登呂博物館が進むべき方向性につい
て

事務局

定刻となりましたので、ただ今より平成 29 年度 第 1 回静岡市立登呂博物館協議会を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただき誠にありがとうございます。

始めに本日の会議ですが、委員定数 10 名のところ、7 名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので本会議は成立いたします。

また、この会議は市民の皆さんに公開されておりますが、本日は傍聴希望者の方がいらっしゃらないことを併せて報告させていただきます。

それでは静岡市観光交流文化局 登呂博物館館長よりご挨拶申し上げます。

館長

博物館長の伊藤です。委員の皆様にはお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。まずはお礼申し上げます。

さて、昨年度は8月に、当館で保管している登呂遺跡出土遺物のうち775点が、国の重要文化財に指定されるという大きな出来事がありました。これはすでにご報告させていただいたとおりでありますが、それを記念して、特別展、とろエンナーレ、シンポジウムといった行事を記念事業と銘打って実施しました。これらの行事は、去年実施した時にはそれぞれ一定の成果が上がりました。行事については、ある意味一過性であると言えますが、重文指定ということについては、将来に亘って重要な出来事でもあります。それらの出土資料の保存管理というのは当館に課せられた非常に大きな責任であります。今後もこれらの効果的な保存、保管、管理、活用ということを念頭に置いて仕事を進めていく責務があると感じているところです。

年が明けて今年の1月には、当館のイメージキャラクター「トロベー」が駿河区の応援隊長に就任しました。「博物館のトロベー」から、「駿河区のトロベー」いわゆる「静岡市のトロベー」、そのように格上げになった訳でもあり、駿河区でも様々な活用や露出を行っていただいているところです。当館としても、その大元であるこの博物館ですので、責任を持って活用、効果的なPRというものに努めていきたいと思えます。

このような当博物館への「追い風」に乗って、今後も登呂博物館がさらに発展、飛躍していくためには、この協議会の皆様から活発なご意見を賜り、博物館の管理、活用、運営に反映していきたいと考えております。今回も忌憚のないご意見、ご助言をいただきたいと思っております。

この協議会につきましては、平成27年度に発足して、現体制での協議会はこれが最終ということになります。なお、任期につきましては7月31日まで残っている訳であり、この協議会の当初の目的、「私どものほうから諮問をさせていただいた内容についての答申」というものを、今日の会議を踏まえて、7月31日を目処に会長からいただけるということで先ほどお話しさせていただきました。繰り返しになりますが忌憚のないご意見、ご指導、ご助言をいただきますようお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

事務局

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

まず、配布資料の確認をお願いいたします。

静岡市立登呂博物館協議会委員名簿、今回の次第、資料、平成29年度登呂博物館組織図、2017年度の博物館スケジュール、チラシ（3枚：「登呂発掘と静岡市の近現代」、「静岡考古展」、「石の刃物鉄の刃物」）、平成28年度第2回協議会議事録 以上です。

次に、事務局から平成29年度事務局職員をご紹介します。資料の組織図をご覧ください。

館長

組織図のとおりですが、代わった職員のみ紹介させていただきます。

観光交流文化局の局長が中島、局次長が和田です。当博物館につきましては、副主幹の浅野に代わりまして主査の益田ちづるが、今年こちらに配属になっております。以上です。

事務局

それでは、ここからは議事に入りたいと思います。石川会長よろしく願いいたします。

石川会長

これより議事の司会進行をさせていただきます。よろしく願いいたします。

本日の協議会は議事録について公開することになっております。公開にあたり、内容について会長や委員が確認し署名することになっておりますが、私の他にもう1人、守屋委員、お願いできますか？

(守屋委員 了承)

よろしく願いいたします。

それでは議事に入ります。

平成28年度の事業報告について、事務局から説明をお願いいたします。

館長

資料6ページをご覧ください。

28年度末までの入館者状況です。28年度の総入館者は184,891人、27年度が186,436人でしたので、残念ながら1,500人強の減ということになっております。

観覧者とは2階の常設展、企画展を観覧されたお客様ですが、28年度は45,812人、27年度が42,496人ですので、逆に3,300人ほど増になっています。これはおそらく重文の効果が出たかなと思っております。

それから、表の下の方に観覧料の比較が出ております。28年度の観覧料合計が687万5千円強、平成27年度が427万円ですので、260万円ほど金額が増えています。

これは、料金改定をして、例えば、これまでの一般大人個人の代金で言いますと200円が300円になったことでもあります。観覧者が増えたということもあり、大幅なアップに繋がったということになります。

それから、28年度は芹沢銈介美術館との「共通券」を始めました。資料6ページの一番下の表になりますが、大人個人で3,879人、単純計算で観覧者の18%ほどのお客様が共通券を購入しているということになります。一昨年実験した時には8%でした。どのくらいのお客様が共通券を買うかということで当初は8%~10%位を予測しておりましたが、実際にやってみると非常に多くのお客様に買っていただいたので、効果があったといえます。以上が観覧者、入館者の内容になります。

次に、事業の方に移ります。7ページ以降は、2階の常設展を出てきたところで行

っておりますアンケート形式の調査で、シールを貼って調べている「どこから来ましたか？」の調査等になります。これは去年の12月までのものに加算して合計したのですが、傾向としては今までどおりですので説明は省きます。

次に14ページ、平成28年度の事業実施状況についての資料をご覧ください。

去年の12月までの事業については前回の協議会でご説明いたしましたので、それ以降で主なものを説明させていただきます。

1月から企画展Ⅲ「静岡考古展」、3月から5月27日にかけて企画展Ⅳ「石の刃物 鉄の刃物」を実施しました。

企画展Ⅲ「静岡考古展」につきましては、これも重文指定記念ということで企画し、県内の指定文化財（考古資料）を色々な市町からお借りして展示しました。文化財に対する知識と理解を深めるということが目的で、普段なかなか一堂に会して見られないような資料を300点ほど集めました。

観覧者につきましては記載のとおりです。

講座、イベント等の12月以降では、資料16ページのしめ縄づくり、どんど焼き、これらは例年行っている事業ですが、年々参加者が増加している非常に人気の高い事業です。

年末、お正月に向けてしめ縄を作り、年が明けて気持ちを改めるためにどんど焼き、という行事は子どもから大人まで今も人気が高いものだと考えられます。しめ縄は100名を超える参加者があり、どんど焼きも200名の参加者があったということで、今後も続けていきたいと考えております。

それから17ページ、企画展の関連講演会として元静岡県考古学会会長の向坂鋼二さんに講演をお願いしました。定員60人のところ56人の参加で、静岡県内の考古資料の概要、特徴を講演していただき、非常に好評でした。

18ページには、出張講座、共催・連携事業があります。

この中で、出張講座3「静岡講師塾」について、これも共催になりますが、先生を目指す方たちを集めて色々な講座を開く一環です。これも参加者が33人ということで例年どおり非常に好評なものでした。

共催・連携事業の12月以降では、19ページの8番「県の埋蔵文化財センター巡回展」、これは県内の東部・中部・西部で行うものですが、中部地区についてはこの登呂博物館の情報コーナーでやっており、それを例年どおり開いております。無料で見学でき、滅多に見ることができない静岡県が発掘調査した成果の公開ということで、非常に好評なものです。それから9番、この会場に「コミュニケーションデザイン」として貼ってあり、これが成果の一つですが、常葉大学造形学部の授業の一環で、登呂遺跡を見に来て、登呂遺跡から感じたものをビジュアルアイデンティティという手法を用いて表現する、その一つがこういうデザインです。もう一つ、今年は映像を作っております。短いもので数秒、長いもので1～2分といった動画で、登呂遺跡、登呂博物館から感じたものを表現する。これも例年やっており、今年も1月に実施しております。

それから、10番については、る・く・るとの連携の「サイエンスピクニック」、11

番婚活イベントも青少年育成課との共催でここを会場として毎年やっております。

12 番の共催展示については、登呂会議という、いわゆる市民団体が主催になります。その登呂会議が登呂遺跡の中で、水田をやったり、ご飯炊きをしたりと色々な体験をしています。その成果を一度表現したいといったことがあり、このホールの後ろ半分で展示会をやりました。

以上が主な事業内容です。

20 ページ以降は広報活動が出ております。これもかなり増えております。広告印刷物や、広報、広報としては、有料のものでは重文記念の横断幕、静岡駅での駅貼りの企画展等のポスター、雑誌への掲載などがあります。無料のものは、静岡市のフェイスブック、無料の雑誌（タンタンやアットエスなど）への掲載があります。無料のものが 32 件、有料と合わせると計 47 件の広報を行いました。平成 27 年度の 27 件と比較すると、ほぼ倍近く数を増やしております。これは一つには重文の記念事業があったので、予算的なものを含めてより濃い広報活動ができたと考えております。

テレビについては 13 件、ラジオは 3 件ありますが、これも 27 年度はテレビ 7 件、ラジオ 2 件でしたのでいずれも増えました。

この中で⑥～⑩は、とろエンナーレという行事に関係したものも含まれております。

⑤の「おもてなし中部 in 静岡」これは、秋篠宮様がお成りになったこともあり、テレビで紹介していただきました。

23 ページにトロベアの宣伝活動があります。まず出演履歴として 17 件ありますが、静大生によるトロベアの出演を年間通して 1 件と数えておりますので、実際には 20 数件ということになるかと思えます。これはほぼ例年どおりです。

そして、23 ページに「平成 29 年 1 月 4 日に駿河区応援隊長に就任」とあります。お手元に参考資料があるかと思えます。これは、表が駿河区応援隊長に任命された時の任命式の次第、裏面がトロベアニュースということでトロベアがどうして応援隊長になったのかというようなことが記載されたものです。それから「トロベアと一緒に」という歌が書いてありますが、これはくじら座というシンガーソングライターが作ったトロベアの歌で、それを 4 月 23 日の「トロベアと一緒にアピタ」というイベントで、演奏してお客様にお披露目をしました。この歌は今、駿河区役所の電話の保留音になっているそうです。

トロベアについてはこのような広い活用が今後も図られるということで、非常に露出が増えていくこととなります。博物館としてもそれに応えるような事業展開をしていかなければと思えます。

皆様のお手元にチラシがあるかと思えますが、展示会「静岡考古展」、「石の刃物 鉄の刃物」の資料です。

28 年度の報告としては以上です。

石川会長

ありがとうございます。それでは皆様からのご意見をお願いいたします。意見のある方は挙手をお願いします。

家木委員

7 ページの都道府県別の観覧者数の中で、関西の京都、大阪、兵庫が人口の割には来館者が少ない、いつも不思議に思うのですが何か理由があるのでしょうか？

館長

ご指摘のとおり、多いのは東京、神奈川、愛知といったところで、おそらく日帰りで容易に来られるということかなと感じてはおります。

家木委員

16 ページ記載の 11 月 19 日のシンポジウム、これも参加者が定員の半数にっていないのですが、どういう宣伝をされたのでしょうか？市民、県民にあまり伝わらなかったのでは？

館長

これにつきましては、前回も説明させていただきましたが、当館としては、新聞、テレビ、ラジオ、ポスター、チラシと宣伝させていただいたつもりだったのですが、その「つもり」が弱かったのかなと感じております。また、当日は、非常に強い雨が降っておりまして、実際、申込者数は参加者よりも数十人多かったのですが、当日欠席されたという方もかなりいたようです。

川崎委員

10 ページの資料についてお尋ねします。広報媒体「何で知りましたか？」という表があって学校の教科書が断然トップですが、「その他」が 471 とかなり多いと思います。「その他」が何なのかがわかれば手をつけられるのかなと思います。また、「その他」にインターネットが入っているのかと思ったのですが、別にインターネットがあって 198、昨年が同じような割合でインターネットが 15%、今年 14%ということになると、インターネットの効果があまりない。今ホームページを見たら 4 月から更新が 4 回、2 ヶ月に 4 回ということでしたが、公立の小中学校はほとんど週 1 ぐらいのペースでホームページを更新していることと比べると、インターネットの更新のペースもあまり高くないのでは？という感想と、「その他」の中身がわかれば、そこに手を付けられて、先ほど家木委員から「どんな広報をしたのですか？」とありましたが、効果的な広報の仕方、あるいは認知度が上がるような方法が見つけられないかなと思います。何か資料はありますか？

館長

この問いは記入式のものではなく、該当箇所にシールを貼ってもらうものなので、今後は「その他」の部分がもう少しわかるような聞き方、場合によっては記入式ということを検討したいと思います。

石川会長

是非お願いします。

川崎委員

「その他」の件ですが、駿府ウエイブのホームページでもかなり PR させてもらっていますので、そういう効果も少しは出ているかなと思っています。

石川会長

7 ページの海外の来館者のところで、意外にロシアから来ている人が多いのですが、館内でロシア語の対応があるのかどうか、また、何故ロシアから多く来たのかその辺がわかれば教えてください。

館長

ロシア語の対応は残念ながらできていない状態です。何故多いのかということも気にはなっていました但しわからないです。もしかすると1人、2人ではなく、まとまって来られているのかなという風には思っています。

石川会長

昨年度の傾向であって、過去4～5年では、ロシアは多くはなかったのでは？

そういうところを分析していただいて、もし何かの理由で今後ロシアが増えてきた場合、パンフレットなどの対応が必要になってくるということですね。

館長

ちなみに27年度は4人でした。

石川会長

やはり団体で来た可能性がありますね。

山岡委員

18 ページの出張講座の中で「静岡教師塾」というのがありますが、これは静岡市内にある団体ですか？それとも登呂博物館で企画されていることですか？

館長

これは、教育委員会で主催している事業です。

山岡委員

それと連携してということですか？

館長

そうです。

石川会長

それでは続きまして、平成 29 年度事業について事務局から説明をお願いします。

館長

29 年度事業につきましては、25 ページ以降 33 ページまでになります。

併せて、黄色いチラシが今年度の博物館の主な事業のスケジュールになりますので、ご覧ください。

基本的には広告印刷物、広報計画等は記載のとおりになりますが、最初はほぼ例年どおりということで計画を組みます。テレビ、ラジオについても例年どおりということになりますが、始まっていく中で、例えばテレビについては広報記者クラブに投げ込みをして積極的に宣伝をしてもらうように働きかけるといったことを加えて行っていくこととなります。

トロベールにつきましても、今のところは特に大きなものということはないですが、27 ページの出演履歴を見ていただきますと、先ほどご説明した「トロベールと一緒にアピタ」や、「みなと大道芸」、「シズオカ×カンヌウィーク」での出演といったことをやっております。

資料 30 ページに 29 年度の事業があります。

企画展につきましては、まず「石の刃物 鉄の刃物」を行ったところですが、それから 6 月 24 日から「登呂発掘と静岡市の近現代」という展示会を行う予定です。この中では 7 月 16 日に静岡大学の名誉教授の山本義彦先生に講演会をお願いしています。今まで登呂博物館では、民俗とか考古というような先生に講演を頼むことが多かったのですが、今回はテーマとして「静岡市の近現代」。登呂の発掘自体が静岡市の近現代史の中で非常に大きなウエイトを占めている、では一体この時代はどんな時代だったのかなということも含めて展示を展開する計画ですので、そういう内容に即したお話を、経済史で近現代のことに非常に造詣が深い山本先生にさせていただこうと考えております。

それから、9 月には「東海土器五十三次展」、年が明けて「古代のふふっ展」という展示会を計画しておりますが、いずれも予定内容につきましてはチラシにも記載がありますのでそちらも併せてご覧ください。

遺跡の活用としては、市民水田事業を筆頭に、水田、水田での田下駄、稲刈り、田んぼで生物観察といった例年どおりの事業を行う予定です。水田に係る事業では、先週の土、日（6/10、11）「田植え、田下駄体験」を行いました。両日で 190 人ほどの参加があり、非常に人気の高い事業になりつつあります。

今後の教育普及事業につきましては、「自由研究お助け隊」、「とろむら体験フェスティバル」等、記載のとおりです。

4 のその他として「平成 29 年 4 月 29 日ミュージアムショップがオープンしました」

とありますが、これは博物館としては非常に大きな出来事でした。去年1年間空だったミュージアムショップですが、ようやく事業者が決定して、堺市の大石商店というところですが、今現在ミュージアムショップを行っていただいております。

それから、28ページのボランティア活動について少し説明します。

28年度、29年度含めての話になりますが、28年度は登録者数が4月1日現在37名、29年度は45名で若干増えております。これは昨年度、今まで1回だった募集を2回して、人数が増えてきたということです。ただ、29ページ4、ボランティア比較を見ていただくと、平成27年度は登録者数34人、1日あたりの参加者4.8人、28年度は登録者数37名、1日あたりの参加者5.7人になっていて、29年度はこれからですが、1日あたりの参加者数が非常に大事な所と考えております。ボランティアが毎日約1人増えているという計算になりますので、登録者数もさることながら、実際に参加していただく実数が27年度から28年度にかけて0.9人増えているということです。今後もしもどうやったら増えていくかということを考えながらボランティアさんをお願いしていきたいと思っております。

32ページ以降は、29年度予算をまとめとして載せております。

当館で関係している予算としては、博物館費、公園管理費、文化財保護費です。公園管理費というのは、北側バス停の所のトイレの管理、運営も28年度からこちらに任されておりますので、その予算が付いているということ、文化財保護費については、史跡の管理、活用をこの予算で賄いますのでそちらも入っております。この3つの歳出費目をトータルで管理しているということになります。

説明は以上です。

石川会長

皆様からご意見ご質問はありますか？

家木委員

皆様にご存知かと思いますが、文化振興課が作った振興計画ができました。この中に、教育機関に期待される役割というところがありまして、これには登呂博物館も入っています。これに沿って進んでいくのが良いのではないかと思います。それがまず1点。

それから、去年SBSプロモーションで行った行事「とろエンナーレ」は、29年度はやらないのですか？

館長

まず1つ目の、文化振興計画これは、今年の3月に文化振興課から策定されたもので、概要は4月以降示されておりましたが、ここ最近公になったものです。確かに、登呂博物館については、「登呂遺跡に関する知識向上と文化の発展に寄与するための施設」と位置づけられているということです。私どももそれに沿って文化振興の視点でも考えていかなければならないと考えております。

とろエンナーレにつきましては、基本的には昨年度、重要文化財指定記念ということで開催し、非常に効果が上がったものではありません。今年度は実施いたしません。

山本委員

田植えの体験ですが、本日も本校の5年生が午後から田植えをこちらでやらせていただけるということで、本当にありがたいと思っています。昨年度は日程の関係で、調整できませんでしたが今年も行えるということで、本当に子どもたちも楽しみにしているというところでもあります。

この登呂博物館の事業について、やはり地元の学校なので子どもたちが色々な事業に参加しているところで、先ほどありましたしめ縄づくり、どんど焼きなどは、やる機会、場所が年々少なくなっていると思うので、こういう場所でそういうことができるということは子どもたちにとっても地域の方々にとっても良い機会ではないかと思っています。ですので、参加される方々が年々増えているというのは良いことではないかなと感じています。

守屋委員

ミュージアムショップができたということで、嬉しいなと思ったのですが、先ほど館長が堺市（大阪）と仰いましたが、静岡県内の業者の応募はなかったということですか？その原因は何か？

予算は勿論あると思いますが、登呂だったらできれば静岡市の業者をうまく引き入れることができなかつたのかなと少し残念だったと思います。喜ばしいことですが、その辺がどんな感じだったのか教えていただければ。

館長

ミュージアムショップを決めたやり方は、公募でプロポーザルという方式です。28年度の中で2回やっていますが、1回目はどこも応募がなく、2回目で応募がありました。

私どもも、市内の業者にやっていただければ近いので良いとは思いますが、大阪の業者ということは判断基準になりませんでした。

山岡委員

企画展は毎年4回ほど途切れることなく入っていて、色々な体験事業も年間の中で配置されていて、事業数がすごく多いと感じました。28年度と29年度の事業について書かれていますが、これは例年に比べて増えてきているのか、例年どおり毎年このくらいされているのかということと、市が運営している他の博物館と比べて事業数はかなり頑張っている方ですか？

館長

具体的に1件1件比べた事はないのですが、どこもこういう形で努力はされている

と思います。

うちの事業としても企画展が4回、4回と言っても最終が3月後半から始まるものもあり、ほぼ5回分になり、若干きつい面はあります。事業の中身についても、展示の中身についても今のところ職員の努力で何とかこなしているという状況です。

石川会長

企画展のテーマ、内容を色々と工夫しながら4回もやられていると、オーバーワークではないのかなという心配もするのですが、テーマを決める時にどういったものを根拠として年間の計画をしているのか教えてください。また、登呂博物館建て替え時の基本構想の中で、役割と使命のところに「東アジアの中の登呂という広域な視点に立ち、国内外における最新情報の成果も加えながら展示をすること」を目標に掲げられていますが、そういったところが今後含まれると良いと思います。中国、アメリカ、ロシアといった海外の方が企画展を見た場合、関心を持てるような内容が含まれると良いと思います。

館長

企画展のテーマにつきましては、まずは常設展で登呂遺跡、登呂博物館の資料を出し、遺跡の説明をしているのですが、どうしても広い展示室とは言えないので内容的に制限があります。その制限としては先生が仰った「東アジア全体から見た」というところでもあるし、あるいは、常設展は登呂遺跡出土の資料がほとんどなので、他のところの他のものとの比較がなかなか展開できないということもありますので、テーマを選んで各年、例えば今年でいうと、石と鉄というものを常設展の内容を補足するような感じで色々なところから資料を借りて展示しています。東海土器五十三次展についても、古代のふふっ展についても、他のところの遺物はどうなんだというところも見てもらいたいので、そういった常設展で説明できないような、そして構想の中に入っている「東アジアの中の歴史からの位置づけ」というものが示せるようなものを選んでいくつもりです。常に色々なところから物を借りてきて展示をすれば良いのですが、やはり物を借りてくるとなるとそれなりのお金もかかりますし、労力もかなり必要になってきますので、その辺のバランスがうまくとれるように、例えば市内のものを中心にするとか、企画展のⅢ、Ⅳはもう少し遠くまで足を運んで物を借りてくるとかバランスを見ながら展示を組んでいます。

石川会長

印象としては、企画展が4つあると予算も4分割されてしまうので、例えば、大きな特別展を2回行うなどの案もあるかもしれない。後は、どういう人たちにこの企画展を見てもらいたいかというターゲット層について、企画展4に関しては地元の子ども達がターゲット層だと思いますが、あとの3つはターゲット層がある程度想定されているのか、それを3回やる必要があるかも含めて戦略を練っていただければということを含めてご意見を聞きたかったということです。

山本委員

トロベーのことですが、駿河区の応援隊長になったということで 27 ページに出演履歴がありますが、今後このトロベーがどういう宣伝活動を予定されているのか教えていただきたいということと、29 ページのボランティアについて、ボランティアの方々が年々増えてきていますが、募集の仕方、どのような方がボランティアとして活動されているのかということをお教えいただければ。

武田

トロベーが駿河区の応援隊長になったということで、ここ登呂遺跡で子ども達に向けたダンス教室をやったり、先ほどお伝えしたとおり、アピタでコンサートなどをやったりしてきました。

今年度の活動については、具体的な日程は未定ですが、引き続きダンス教室などイベントを開催していきたいと考えて駿河区と共同してやっております。またトロベーの中に入る人を募集したいと考えており、現在、駿河区と博物館の職員でトロベープロジェクトチームというものを作って、イベント活動をしています。今後は大学生などの層にも広げて、トロベーカーラン隊といったトロベーチームを作って行く予定です。

館長

ボランティアにつきましても、いわゆる高齢、定年後の男女の方が多くですが、若い方でいうと高校生、大学生も数人在籍しております。登録だけでなく実際にこちらでの活動もしていただいています。

募集については、新聞、広報に出して夏 8 月頃と、冬 12 月頃の 2 回を今年度もする予定です。

石川会長

他になければ、34 ページになりますが、協議会の議題として「登呂博物館の新たな価値の模索、創造」ということで、前回ワークショップ形式でやったことの継続も含めて、参加型のワークショップを進めさせていただきたいと思います。

【進め方】

○前回

- ・ワークショップ形式
- ・目的：「登呂遺跡、登呂博物館の価値や魅力を高め、集客力を向上させること」
- ・ワークショップのための仮目標：「登呂博物館の来館者数を 5 年後までに 10% 増やすにはどうしたらよいか」
- ・登呂博物館の強みと弱みを把握した上で、それを踏まえて登呂博物館が今後やるべきことをポストイットに書いて、ホワイトボードに貼付。

○今回

- ・前回のポストイット（意見）を各自に返却
- ・今日の事業報告、事業計画を踏まえて、登呂博物館がやるべきことについてポストイットに書き加え、その後、前回意見とともにホワイトボードを使って新たに整理。
- ・目的：「登呂博物館の新たな価値の創造」
- ・目標：「仮に5年以内に価値を創造することによって来館者を10%増やしていく」
- ・加筆作業時間は5分～10分
- ・1項目1枚
- ・順番に説明しながらホワイトボードに貼る。
- ・「実行したときの効果と自館の力で実行できるかのマトリックス表（別表1）」と「行動計画表（別表2）」の2つを作成。
- ・マトリックス表（別表1）：来館者を増やすことに対し、縦軸が実行したときの効果を表し、横軸は自館の力で実行できるかを表す。
- ・行動計画表（別表2）：マトリックス表の結果を踏まえて次のとおり整理しなおす。
実行がすぐ簡単にできて効果が大きなものは1～2年目、実行はすぐできるけれど効果が少ないものに関しては優先順位をこの後にしようかとか、実行は難しいけれど効果が大きなものに関しては、協力者を得て、3年～5年、場合によっては、さらにお金が付かないとハード面が難しいなどの場合は6年以降という形で表を作成。
- ・最終的には答申と言う形でまとめる。

～各自記入～

石川会長

そろそろよろしいでしょうか。では順番に。

山岡委員

「価値の創造」とありますが、私は「価値の創造」とは2つあると思っています。1つは、地域社会の中での位置づけ、もう1つは研究所としての価値、その2つがあると思います。そのことを分けて整理したほうが良いかなという気はするのですが。

私が考えることは研究寄りになってしまうのですが、3つあります。前回もすでに指摘されていることですが、展示やパンフレットの英語対応というのは、やはり必要ではないかと思います。これが短期的な、「仮に5年以内に来館者数を10%上げる」ということにどれだけ貢献するかわからないですが、すでにかんりの外国人の方が年間いらしている訳ですが、今日少し展示を見せていただきましたが、もしも日本語がわからなければきつかなという気がしました。英語だけでも、もう少し何か、常設展示に付けるのは難しいと思いますので、パンフレットのようなものが少しあるだけでも・・・というのが1つ目です。

あとは、研究の方でどう価値を上げていくかというところで、もっと研究者を呼び込んだ方が良いのではないかという気がします。例えば、大学に送られてくるような

ものを見ると、遺跡に関わる研究をする人に助成金をあげるなど目にしますので、そういうことで何人か集めて1年間やってもらい、研究発表の場を設けても良いかと思えます。あるいは、より難しくなるかもしれませんが、プロジェクトなど。

あとは、助成金、プロジェクトではないにしても、静大の篠原先生が田んぼを借りて研究されたりしていますが、それに関わった研究者の方には、小展示、ポスターなどを作ってもらおう交渉をして、広めるということがあっても良いのかなと思えます。

家木委員

前回ある程度出ておりますので、今回は大きい目を見た場合のことです。

時代を担う若い人の育成をやっていかなければならないのではと思います。それから、今まで、市民、県民、全国へPRされていますが、それをもう一度再検討してみたい。本当に効果があるのかどうか。それから、登呂の歴史、特別史跡など歴史を広く宣伝していきたい。以上です。

川崎委員

前回、観覧者を増やすにはバスツアーなどかどうかという提案をしましたが、(駿府ウェイブの関連で) それについて調べてみると、バスツアーで登呂遺跡へ来たのはゼロ、個人、ちょっとした団体は10数件ありました。

バスツアーは、浅間神社、駿府城址、久能山、三保の松原とセットで行きますので、そうするとボランティアガイドはどうなるのか?という話になり、今の人数では、もしバスが増えて来たら足りなくなるのでどうすれば良いかということで、ここに関係している人に聞いたところ、駿府ウェイブの人間がここのボランティアガイドを兼ねれば一番簡単で良いとのこと。今やっている人たちを浅間さん、駿府城をやるときは駿府ウェイブのユニフォームで、登呂遺跡に来たときは登呂遺跡のユニフォームで、また三保へ行く時は駿府ウェイブのユニフォームに着替え、そうやってきているので、もしボランティアガイドが必要なら駿府ウェイブが兼ねたら良いという話です。

山口委員

先ほども質問しましたが、広報媒体の「その他」を分析してそれをターゲットに繋げることができると思えます。また、田植えをする子どもたちに、その後黒米がどういうふうになっているのか例えば週1回くらいで「今日の黒米」とアップするだけで、また見に来ようかなと思うのでは。

来場者数のグラフを見ると、4、5月の来場者が多い。それは小学生が多いからだと思うのですが、8月にリピーターとして親と一緒に来るといような企画、今年もあるようですが更に工夫していただくと行ってみようということになるのかと思えます。また、古代米、黒米を中心に、やってみたいというところに種を分けるということではできないものかと思えます。

また、登呂と同時代の他の地区の遺跡とどのように連携、協力されているのか、視察をして展示方法などを研究されているのか、やってみたら良いと思えます。また、

近隣の施設との連携を進めるということも大事だと思います。

山本委員

登呂まつり、トロベー、ミュージアムショップは、やはりもっと PR が必要ではないかと感じます。また、しめ縄、どんど焼きが人気とのことなので、そういうところでもっともって人を集める PR をするのも必要かなと思います。

それから、4月、5月に入場者が多いとのことでしたが、逆に12月、1月が少ないというところで、やはりその対策を考えていってはどうかと思いました。

それから難しいと思いますが、清水港に豪華客船が着きますが、その観光コースに入れられないかと思っています。

守屋委員

ここで簡単にできるプログラム、メニューの増加とありましたが（前回）、富士宮の奇石博物館は、館外に宝石を捜すコーナー（1人1回300円）があります。夏休みなどは朝から閉館までやっている人もいて、そのリピーターもすごく多いので、そのような疑似体験、どこかに山などを作って土器のかけらを埋めておいて、それを発掘する体験コーナーというのもあって良いのかなど。遺跡を発掘するってこういうことなんだという体験ができると思います。

それから、ショップに黒米があったのですが、ここ（登呂）産ではなかったのですが、できれば登呂の田んぼで作ったお米、市内で作った黒米などが手に入るのであれば若干高くてもお客さんは購入すると思います。他の県、他の産地では買わない、登呂で作ったお米なら買ったのに・・・というのがあると思います。もし、登呂で作ったお米が販売できれば嬉しいと思います。

また、静岡のここ（登呂）と、久能と、違う所と・・・と回るには、自家用車でなければ行けないというイメージがある人が多いと思いますが、バス会社、市に協力してもらってバスを1台で良いので、ぐるぐる回ってもらって、史跡を回ってもらって、電車で来た人もそれに乗れば、次から次へと行けるようなコースを作っていただけるように協力を仰ぐと良いのではと思います。

石川会長

続いて、職員側として伊藤館長からお願いします。

館長

展示・講座にボランティア、市民活動団体に手伝ってもらうあるいは主体になってやってもらうという体制が取れないかなと思います。相手次第だとは思いますが。

それから、遺跡の中で、例えば住居の中に宿泊するというようなもの、博物館でもシズカンのときに夜の開放をしましたが、そういうものを市民とクラブ活動のような形でできないかなと思っています。

研究面でいうと、「東アジアの中の登呂」というものを深めたものを今もやってい

ますが、大学、研究機関との連携をもっと取れないかなと思うところです。

前回挙げたものとしては、「明確なテーマを持って、調査、研究を」という私どもの反省でもあります。自力でやらなければいけないと思っています。それから「小さな子どもが興味を持つ展示」ということです。

小島

前回、「リピーターの確保」という意見を出しましたが、体験プログラムを充実させたらリピーターの確保に繋がるのかなと思います。

次に、これは博物館だけではできませんが、教育委員会と連携して、ここは5年生、6年生が勉強しにいらっしゃることが多いですが、低学年に「親しむ」こと、郷土愛を育むことを目的に、遠足のような感じよいので市内から来てもらえたら良いのではないかと思います。それに伴って小学生の低学年用のプログラムメニューを作って、体験してもらおうというのが時間的にも良いのでは思いました。

あとは、先ほど豪華客船の話も出ましたが、ホテルや宿泊施設と連携を取って誘客を図るのはどうかなと思います。リゾート地などでは所定の観光施設へ送迎ということをやっているホテルなどもあるようなので、そういうことができれば良いのかなと思います。

益田

入館者数などを調べている中で、小学生、大人の方に比べて高校生、大学生の入館者が少し少ないと感じたので、高校生、大学生の興味を引く事業が何かできれば良いかなと思います。

2つ目は、先ほど守屋委員のお話にもありましたが、他の施設への移動方法、こういう施設がありますという案内はしていますが、そこへどうやって行ったら良いかということがなかなかわからないところもあり、静岡に初めて来た方は行きづらいかもしれないと感じたので、移動方法をわかりやすく紹介できれば良いかなと思います。公共交通機関ではなく、車で行くと何分かかかるのでタクシーを使う、といった場合は近くのタクシー会社を紹介しても良いと思います。

最後に、広い復元水田がありますので、古代から伝わる植物などがわかれば栽培してみてもどうかと考えました。できれば花であれば、「花が好きなので」と、見に来られる方がたくさんいると良いと思い挙げてみました。

鈴木

体験メニューの増ということで、体験展示を前から行ってきていますが、もう少し増えて、より「体験型」というものが強調できればリピーターも増えるし、体験型というようなブランド化ができれば良いのかなと思っています。その中でボランティアなどの方をより活用できて、自主的に何かしらメニューを作って実施する、だんだんその方向になりつつありますがそういうことができれば良いと思います。

広報活動は皆さんが仰ったとおりです。前回の協議会でもありましたが、とろエン

ナーレが意外と好評でしたので、自力ではとてもできませんが実行委員会形式や文化庁の補助金をもらえるようなことがあれば、3年に1度、美術展というものはとろエンナーレに限らず他の団体でもやっているのその中に組み込んでいただく、個々に関係ない分野でお客さんに来ていただく、新しい価値を創造できると思います。

専門職員の確保について、展示も博物館に来る魅力の一つだと思いますので、考古などに特化した方を集められる体制ができればと思います。市の人事の制度もあるので難しいところもありますが。

観覧料の無料化について、博物館法では基本的に無料にしていますが、基本的にはどこでも有料だと思います。一つのトレンドとして無料化するという方法も最近出始めていると思います。富士の市立博物館も一昨年リニューアルして全員無料です。うちで無料のイベントをやると人も集まりますので、「無料」というのはやはり強いです。本来社会教育施設ですので、市との兼ね合いで難しいですがそういう方向もあるのではと思います。

屋外の活用について、うちは他の美術館等と違って外があるというのがひとつの大きな特徴だと思います。住居の部分は活用できていますが、東側の水田域などは全然手がつけられないところです。史跡に指定されているのですぐに何か変わったものを作って良いという訳にはいきませんが、そこで何かしら人を集められる、例えば古代の植物、古代の蓮を栽培しているところは色々なところがありますので、予算の問題もあり難しいのがありますが、非耕作地、屋外をもう少し何かできるかなという気もしています。

他の館との連携、近くに博物館、隣に美術館もあり、久能山、三保の松原がありますので、一連の流れはうっすらと見えてはいます。なかなかできていませんが、そういうこともできたらと思います。

石川会長

確認ですが、右下に貼ったという方がいらっしゃるのでは？

ここは、実行することも自力では難しいし、実行しても来館者数を10%上げるにはなかなか難しいという、あまりやっても仕方がないという欄なのです。とろエンナーレは実行すれば良い（効果が出る）のでは？右上の方じゃないかな？宜しいですか？

山岡委員

価値の創造ということを考えた時に、それと来館者数を10%上げるというのがイコールになってこない、もっと長期的に考えなければいけないことだと思います。だからそれはそれで右下に貼っても、無価値である訳ではないと思うのですが。

石川会長

価値ということ言うと、とろエンナーレは、「新たな価値の創造」そのものかなと思います。

考古や歴史以外に関心のある人たちが関わって登呂博物館の良さを再認識するき

かっけになるのではないかと思います。

(貼付箇所の変動、追加、記録写真撮影)

それぞれ意見を出していただきましたので、これを行動計画に移すことにします。まず、登呂博物館の自館の力で実行できるのではないかと、それをやれば効果が大きいところ(実行が簡単で効果が大)を取り上げて探していくと、

- ・1月、2月に入館者が減るその対策は是非ともすぐして欲しい。それに対して適当な広報活動を。インターネットというのは先ほどの資料では(効果が)あまり無いようですが、頻りに更新することによってインターネットを見る人たちが活用できるのではないかと。

- ・市民へのPRの検討。トロベー、ミュージアムショップ、しめ縄づくり、どんど焼きといった魅力のあるイベントは多くやっているけれどもそのPRが少ないので、インターネットなど色々な方法を駆使してPRをして欲しい。そういうことをやってリピーターが確保できるのではないかと。

- ・小学校低学年用のプログラムメニューを作成すれば、学校教育・授業の中でも活用してもらえるのではないかと。

- ・登呂の歴史を広く宣伝する

- ・4、5月に多い子どもの来場者に、8月に親子連れで来てもらえるような企画を入れる

続いて、効果は少ないけれど自館でできるのではないかとこの話を進めていきます。

- ・体験メニューを増やす。団体利用者への体験メニューの対応は難しいとしても、少人数のグループ向けの体験メニューなど

- ・古代米、学校などへ広げて育てる

- ・教育委員会との連携、低学年が親しむことを目的とした遠足などに来てもらう

- ・全国の他の地域、同時代の遺跡との連携。視察、協力。

- ・市内の他の施設への移動方法をわかりやすく紹介して、交通機関別(バス、タクシー等)で案内をする

- ・小さな子どもが興味を持つような展示とは何だろうか?今後リニューアルする時期に向け検討

次に、実行するのは自館だけでは難しいが、実行すれば効果が大きいという項目

- ・関係者の協力を募ってやっていく、場合によっては6年先の話になってしまうかもしれませんが、その次の段階。他館や隣館との連携、芹沢美術館との共通券利用者が18%いるということはまさにその先駆けで実際に行われているのでぜひ進めるべき

- ・遺跡の野外の活用、非耕作地で何かできないか

- ・観光バスツアーに組み込んでもらうPR、市や観光課に営業しに行く

- ・駿府ウェイブの調査では過去8年間バスツアーでの登呂観覧者はゼロ、何が足りないのかを検討して改善する

- ・次世代の人材育成、専門職員の確保

- ・魅力ある展示

- ・古代から伝わる植物の栽培(公園の活用)

- ・観覧料を無料化。人が多く来てもらうための手段
 - ・とろエンナーレ、3年後に新たに企画できるように
 - ・展示、パンフレットの英語対応。外国人が多くなっていることもあり、世界、少なくとも東アジアの人たちに来てもらえるように戦略を練って英語化を
 - ・簡単に短時間でできるような体験プログラム、擬似発掘体験など。岩手県久慈市で琥珀を発掘するところがあり、2～3時間で発掘できれば持ち帰りもできるので親子が真剣にやっていて人気がある。
 - ・遺跡での生活体験のクラブ化、宿泊。八戸、是河縄文館の委員をしていますが、一戸でそのようなことをやっているのをテレビで放映していました。
 - ・もし来館者が増えた場合案内後のボランティアはどうするのか？浅間神社等のボランティアと一緒にボランティア登録するという提案
- あと、実行は難しくて効果は少ないのではないかという意見もその他で話していただきましたが、場合によっては工夫すれば、効果大、実行可のほうに入ってくるかもしれない。

以上、ご意見ありがとうございました。

バラバラに貼りましたが、この中でも似たようなものをグループ化していくともう少しわかりやすくなると思います。

山口委員

改めて気が付いたのですが、公立の博物館は多くの行政で教育委員会の中にあることが多いという感覚でしたが、先ほどの、「低学年の子が遠足的に来たらどうか」というのを聞いて「来てもいいんだ」という印象を持ちました。これまでは登呂へ行くのは、5、6年生が勉強で行くと固定的に考えていましたが、今、職員の方からそのような発想があったので、「そうさせてもらってもいいんだ」ということを改めて学校側として感じました。教育委員会の中にこの組織がないので、その辺の情報の行き来があまりうまくいっていないのかなと思ったので、もっと情報をうまく流せば学校の子ども達が5、6年生に限らず低学年のうちから来て、小学校のうちにリピートできるサイクルができて、それが中高生まで繋がってボランティアに繋がってとなれば魅力的だと思いました。

石川会長

校長会の集まりなどでPRするなどですね。他に何かご意見などは？では皆様からのご意見は、今後博物館の運営に活かしてもらえますよう、よろしく願いいたします。これで議事を終了させていただきますので、事務局にお返しします。

事務局

それではこれを持ちまして、平成29年度第1回登呂博物館協議会を閉会させてい

たきます。

本日はお忙しい中をご出席いただきまして誠にありがとうございました。

署名欄

静岡市立登呂博物館協議会

会長

委員
